

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	道路自然災害防止事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	土木課		包含する細々目	1	8	2	3	12	9	
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり					1	8	2	3	12	1	
施策	41 災害対策の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	年度～	年度	関連計画 条例等	飯田市地域防災計画(交通施設・道路危険箇所)						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・飯田市地域防災計画 交通施設災害予防道路危険箇所	未整備危険箇所数:箇所	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			37				
	・道路危険箇所の法面崩壊及び土石流等の防止工事	道路自然災害防止完了箇所数:箇所	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
手段の記述	・昭和54年6月作成(平成11年9月改定)の飯田市地域防災計画により、道路危険箇所の維持・改築を行い法面崩落、落石等を未然に防ぎ、道路の安全性を確保するものである。 ・交通施設(道路)危険箇所 65路線72箇所中、平成17年度末で34箇所概成。	18年度の実績	18目標	35	最終目標	72	60
			18実績		19目標	36	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・昭和54年6月作成(平成11年9月改定)の飯田市地域防災計画により、道路危険箇所の維持・改築を行い法面崩落、落石等を未然に防ぎ、道路の安全性を確保するものである。 ・交通施設(道路)危険箇所 65路線72箇所中、平成17年度末で34箇所概成。	ハード事業(測量調査・工事施工) ・市道1-27号線 大休 施工延長 L=30.0m ・市道龍江47号線 北の沢 施工延長 L=30.0m ソフト事業 ・飯田市地域防災計画の見直しに合わせ、道路危険箇所の台帳整理。 ・経費削減のための新工法の検討。 ・地域住民へ道路危険箇所の情報発信。	施工箇所数(箇所)	2箇所程度
	18年度の実績			
	19年度計画	ハード事業(測量調査・工事施工) ・市道龍江47号線 北の沢 施工延長 L=30.0m ・市道上久堅122号線 大鹿 施工延長 L=50.0m 他未整備路線 ソフト事業 ・経費削減のための新工法の検討。 ・地域住民へ道路危険箇所の情報発信。	施工箇所数(箇所)	年間2～3箇所程度

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	10,000	10,000
	その他		
一般財源			
事業費計(A)	10,000	10,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 100	19年度 100
	臨時職員等所要時間	20	20
	人件費計(B)	379	379
	トータルコストA+B	10,379	10,379

特定財源内訳や補足事項	地方債(自然災害防止事業)
-------------	---------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値				
	災害や火災の被害を軽減する。	市民が災害にそなえている割合	現状値	40.1	19実績		
			20実績		21実績		
				22実績		23目標	60
	火災発生件数		現状値	63	19実績		
			20実績		21実績		
22実績				23目標	50		

この事業を開始したきっかけ ・平成11年9月改定の飯田市地域防災計画により、道路危険箇所の維持・改築を行い道路の安全性を確保するものである。	事業を取り巻く状況の変化 ・近隣町村において、落石等による交通事故が発生しており、飯田市においても危険箇所が多く早急な対応が求められている。	事業に対する市民や議会の意見 ・安全な市民生活のため、市民や議会より危険箇所の調査や早期改良要望が出されている。
---	---	---

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) ・道路整備により、法面崩壊及び土石流等からの被害を未然に防ぎ、住民の安心な生活と安全な通行が確保される。	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) ・工事現場において現況を確認し工法等を精査する中で、新しい工法の採用等必要最小限の費用で最良の工法による工事を実施する。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がある (その理由) ・市道全般の再調査による道路危険箇所の見直し。	廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) ・道路法面崩壊や土石流等により住民の安全な生活や安全な交通の確保に支障を来す。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) ・危険箇所を整備することにより、災害の防止及び安全な交通の確保を図り、住民が安心して生活できる環境を整える。	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) ・道路災害防止に関する類似事業は無い。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) ・道路管理者として、災害等を未然に防ぎ、住民の安全性を確保することは市が関与する必要がある。	効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 可能 (その理由) ・危険箇所の調査等を頻繁に実施することにより、大規模な事業規模になる前に改良工事を実施することで事業費の抑制ができる。 ・工事設計時や施工時において、工法の検討や工事実施方法の検討を行うことにより経費の節減を図る。
	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) ・市道であり、利用者は特定できない。公共性の高い事業であり当該事業の実施は妥当である。	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 ・飯田市地域防災計画の道路危険箇所の改修率は50%程度であり、法面崩落、落石等の危険がある路線が多く残っている。危険箇所の早期調査を実施し緊急性の高い箇所を把握し、計画的に事業実施を行った。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	・緊急度の高い危険箇所の把握と整備順位。 ・整備箇所に適合する、新たな工法の研究。 ・危険箇所が多く、道路整備に対する市民要望がある中で、早期に整備を進めるための予算措置。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	